- ※本レジメン集は外来化学療法加算の算定を行っているレジメンのみを掲載。 ※当加算を取れない治療法や削除となったレジメン等のため、登録記号・番号に欠番がある場合あり。

削除 CDDP+CPT-11療法

	DH N 102								
対象	疾患	胃がん	レジメン名	Weekly PT	X単剤療法				
1コー	-スの期間(休	薬期間含む	28日						
総コ	総コース数制限なし								
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1, 8, 15			
	ジフェンヒドラ		5 T	経口		day 1, 8, 15			
3	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15			
_	デキサメタゾ		1 V		30),	day 1, 0, 13			
4	ファモチジン		1 A	静注		day 1, 8, 15			
5	パクリタキセ	ル(PTX)	80 mg/m^2	点滴静注	60分	day 1, 8, 15			
)	生食250 mL		1 P			day 1, 6, 15			
6	生食250 mL	(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15			
	L管外漏出 リスク分類		PTX: 壊死性						
	:性リスク分類		PTX:軽度						
	インフィルター	PT	PTX投与のため、0.22 μm以下のインラインフィルターを使用						
	の要不要	1.	1111χ 1 • 2/C • 2, 0.22 μm ε/ς • 2/1 • 2/1 • 2/1 • 2/1 · 2/2 ·						
備考欄 ※ジフェンヒドラミンは、PTX投与30分前に内服する。									

	D 目 ル・7/25								
対象		胃がん	レジメン名	DTX単剤療法					
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	21日						
総コ、	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
2	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1			
	デキサメタゾ		1 V	尽個財任	3071	day 1			
3	ドセタキセル	(DTX)	60 mg/m^2	_ 点滴静注	60分	day 1			
	生食250 mL		1 P			day 1			
		フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	1管外漏出 リスク分類		DTX: 壞死性						
催吐	性リスク分類		DTX:軽度						
	インラインフィルター の要不要		不要						
	備考欄								

削除 S-1単剤療法

B胃がん5 削除 MTX+5-FU療法

	がん6					
		胃がん	レジメン名	S-1+CDDP	療法(SP療剂	生)(S-1: 3週投与2週休薬法)
		薬期間含む)	35日			
総コ	ース数	制限なし(但しCDDPは				
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	オランザピン	U	1 T	経口		day 8~11 (Max day 8~13)
2		メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~21
3		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 8
4	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 8
5		ト125mg (day8) 、 80 mg (day9~10) 『タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 8 (125 mg) , day 9~10 (80 mg)
	生食100 mL		1 P			
	デキサメタゾ	∨6.6 mg	1 V		30分	
6	デキサメタゾ		2 A	点滴静注		day 9
	パロノセトロン		1 V	小仙时任		day 8
	ホスネツピタ ※アプレピタ	ント235 mg ソント未使用の場合	1 V	% ∀ ⊢₁		
7	デキサメタゾ	∠4 mg	2 T	経口		day 9~11
8	シスプラチン 生食500 mL		60 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 8
9		ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 8
	フロセミド20r		1 A	静注		day 8
	生食1000 ml	C	1 P		-π±- ΗΗ	-
11	生食500 mL		1 P	点滴静注	6時間	day 8~10
	1管外漏出 リスク分類			CDDP:炎	症性	
	上性リスク分類		レジメン全体	:高度(S-1:	軽度 CDDI	2:高度)
インラ	ラインフィルター の要不要			不要		
	備考欄	降は日中の眠気軽減 禁忌であり、糖尿病リス れていないため、血糖 ※NK ₁ 受容体拮抗薬に 8、抗がん剤投与開始しる。 ※CDDP総投与量200 ※S-1投与量は以下の	最大10 mgまで増量可能。day 8は抗がん剤投与前の投与であるが、day 9以目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者にはな力因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立さ上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 8またはアプレピタント125 mg/day (day 1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 9~10、午前中)のいずれかを投与す~300 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意(最大6コース目まで)。通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。mg/day、BSA 1.25 m²以上:120			

	////////////////////////////////////	胃がん	レジメン名	S-1+DTX病	家 法				
		薬期間含む)	21日						
	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	テガフール・ギ	メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14			
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
3	生食100 mL		1 P 1 V	点滴静注	30分	day 1			
		デキサメタゾン6.6 mg		1// [III] [1], [TT	5075	, -			
4	ドセタキセル	<u> </u>	40 mg/m^2	点滴静注	60分	day 1			
	生食250 mL		1 P						
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	1管外漏出 リスク分類			DTX:壞	死性				
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:軽度 (S-1:軽度 DTX:軽度)						
インラインフィルター の要不要			不要						
		※S-1投与量は以下の	※S-1投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。						
	備考欄	BSA 1.25 m ² 未満:80 r	mg/day, BSA 1.25	m ² 以上1.5 m	m ² 未満:100	mg/day、BSA 1.5 m ² 以上:120			
		mg/day	<i>5y</i> ,1-1	, ··•	, ., ,	<i>5</i> ,			

削除 IRIS療法

B胃がん9

削除 CPT-11+MMC療法

B胃がん10

削除 UFT単剤療法(N-SAS-GC)

B胃がん11

削除 S-1単剤療法(ACTS-GC)

B胃がん12

削除 Low dose FP療法

B胃がん13

削除 5-FU+DXR+MMC療法(FAM療法)

B胃がん14

削除 CPT-11+S-1療法(IRIS療法)(S-1 2週まわし)

B胃がん15

削除 PTX+S-1療法 (S-1 2週まわし)

	かん16						
	疾患	胃がん	レジメン名	CAP+CDDP療法(XP療法)			
1コー		薬期間含む)	21 日				
総コ	ース数	制限なし(但しCDDPに	は6コースまで)				
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	オランザピン		1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)	
2	カペシタビン	(CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14	
3	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
4	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 1	
5		ト125mg(day 1)、 80 mg(day 2~3) プタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) 、day 2~3 (80 mg)	
	生食100 mL		1 P				
	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V				
_	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A	占海热沙	30分	dov. 1	
6	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V	点滴静注		day 1	
	ホスネツピタ ※アプレピタ	ント235 mg アント未使用の場合	1 V				
7	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~4	
8	シスプラチン 生食500 mL		80 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1	
9	20%マンニト		0.66 P	点滴静注	30分	day 1	
	フロセミド20r		1 A	静注	30),	day 1	
11	生食1000 ml 生食500 mL	L	1 P	点滴静注	6時間	day 1~3	
ń	1管外漏出		11		ارا ك		
	リスク分類			CDDP:炎	<u> </u>		
	上性リスク分類		レジメン全体:	高度(CAP:	軽度 CDD	P: 高度)	
インラ	ラインフィルター の要不要			不要			
 ※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性はれていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK1受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/da 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中)のいずれかを認る。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意(最大6コース目※CAP投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)(C法)。 BSA 1.36 m²未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m²以上1.66 m²未満: 3000 mg/day、BSA 1.96 m²以上1.96 m²未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m²以上: 4200 mg/day 					れている。また、糖尿病患者には 者に対する投与の安全性は確立さ 更である。 はアプレピタント125 mg/day (day 3、午前中) のいずれかを投与す 毒性注意(最大6コース目まで)。 分2投与)(C法)。 1.66 m²未満:3000 mg/day、		

B胃がん/17

	がん17							
対象		胃がん	レジメン名	Tri-weekly	Tra+CAP+C	CDDP療法(Tra+XP療法)		
		薬期間含む)	21日					
総コー	ース数	制限なし(但しCDDPに	は6コースまで)					
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	オランザピン	5 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)		
2	カペシタビン	(CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14		
3	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
4	生食1000 mI		1 P	点滴静注	4時間	day 1		
_		125mg (day 1)						
5		80 mg (day 2~3) タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) , day 2~3 (80 mg)		
	生食100 mL		1 P		ĺ			
	デキサメタゾ	∠6.6 mg	1 V	1				
	デキサメタゾ		2 A	トンマキケンム	20.4			
6	パロノセトロン	<u> </u>	1 V	点滴静注	30分	day 1		
	ホスネツピタ	<u> </u>		1				
		ント未使用の場合	1 V					
7	デキサメタゾ		2 T	経口		day 2~4		
			初回8 mg/kg					
0	トラスツズマフ	(Ira)	2回目~6 mg/kg	上海热沙	90分	1 1		
8	注射用水20 mL		※備考欄参照	点滴静注	※備考欄参照	day 1		
	生食250 mL		1 P	1				
	シスプラチン	(CDDP)	80 mg/m^2	► >=+++ >().	- n-1- BB			
9	生食500 mL	(- /	1 P	点滴静注	2時間	day 1		
	20%マンニト		0.66 P	点滴静注	30分	day 1		
11	フロセミド20n	ng	1 A	静注		day 1		
12	生食1000 mI		1 P	点滴静注	6時間	day 1~3		
12	生食500 mL		1 P			day 1~3		
	.管外漏出 リスク分類		Tra: 非炎症性 CDDP:炎症性					
催吐	:性リスク分類	レミ	ジメン全体:高度(CAP: 軽度	Tra:最小度	CDDP: 高度)		
	インフィルター			不要				
	の要不要			17女				
		※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中)のいずれかを投与す						
	備考欄	る。 ※Traの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※Traの溶解に用いる注射用水は、Tra 150 mgVは1V当たり7.2 mL、60 mgVは1V当たり3 mLであり、溶解後のTra濃度は21 mg/mLとなるようにされている。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意(最大6コース目まで)。 ※CAP投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)(C法)。						
						1.66 m ² 未満:3000 mg/day、		
			_	-		1.96 m ² 以上:4200 mg/day		
		DSA 1.00	Ⅲ 以上1.90 Ⅲ 木	叫. JOUU IIIg/	uay, DSA	1.50 III 以上.4200 IIIg/day		

削除 S-1単剤隔日療法

	B 月かん19								
		胃がん	レジメン名	CPT-11単剤療法					
1コー	-スの期間(休	:薬期間含む)	49 日						
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1, 15, 29			
	生食100 mL		1 P						
2	デキサメタゾ	以タゾン6.6 mg 1 V 上海 森 注	点滴静注	30分	dov. 1 15 20				
2	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A	从何即任	3077	day 1, 15, 29			
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V						
3	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~3 day 16~17 day 30~31			
4	イリノテカン(150 mg/m^2	- 点滴静注	90分	day 1, 15, 29			
	生食250 mL		1 P			53, 5 (5 (5)			
	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1, 15, 29			
	1管外漏出 リスク分類			CPT-11:炎	症性				
催吐	上性リスク分類		CPT-11:中等度						
インラ	ラインフィルター の要不要		不要						
	備考欄								

	D 月 ル・/~20								
対象	—	胃がん	レジメン名	Tri-weekly	nab-PTX単剤				
1コー	-スの期間(休	(薬期間含む)	21日						
総コ、	総コース数 制限なし								
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
2	生食100 mL	r	1 P	点滴静注	30分	dov. 1			
	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	尽何盱住	30分	day 1			
	アルブミン懸	濁型パクリタキセル	260 mg/m ²	- 点滴静注	30分				
3		(nab-PTX)				day 1			
	生食100 mL		1 P			July 1			
4	生食50 mI (フラッシュ用)	※備考欄参照 1 P	点滴静注	全開	day 1			
	工及50 mll (管外漏出	/ / / / - / / /	11			day 1			
	リスク分類		nab-PTX: 壊死性						
催吐	:性リスク分類		nab-PTX:軽度						
	インフィルター の要不要		nab-PTX投与のため、インラインフィルターは <u>使用禁止</u>						
	備考欄	※nab-PTXは生食にて	て20 mL/Vで溶解するが、生食の不要な残液は破棄する。						

	がん21					
	疾患	胃がん	レジメン名	S-1+CDDP	療法(SP療剂	去)(S-1: 2週投与1週休薬法)
		薬期間含む)	21日			
総コ	ース数	制限なし(但しCDDPは				
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	オランザピン		1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)
2		メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14
3		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 1
5		ト125mg(day 1)、 80 mg(day 2~3) アタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) 、day 2~3 (80 mg)
	生食100 mL		1 P			
	デキサメタゾ		1 V		30分	
6	デキサメタゾ		2 A	点滴静注		dov. 1
6	パロノセトロン		1 V	从何		day 1
	ホスネツピタ ※アプレピタ	ント235 mg ント未使用の場合	1 V			
7	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~4
8	シスプラチン 生食500 mL		60 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
9		ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1
	フロセミド20r		1 A	静注		day 1
	生食1000 ml		1 P		6時間	day 1~3
11	生食500 mL		1 P	点滴静注		
	L管外漏出 リスク分類			CDDP:炎	症性	
	:性リスク分類		レジメン全体	:高度(S-1:Ē	軽度 CDDF	P:高度)
	インフィルター の要不要			不要		
※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。d 降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕 禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳 れていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/d 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 m る。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m²を超える場合は ※S-1投与量は以下の通りである(いずれも1日2回 BSA 1.25 m²未満:80 mg/day、BSA 1.25 m²以上1 mg/day					後投与とされ 人上の高齢者 注意が必要 をday 1また day (day 2~ 積性の神経 明夕食後の分	れている。また、糖尿病患者には 者に対する投与の安全性は確立さ 更である。 はアプレピタント125 mg/day (day 3、午前中) のいずれかを投与す 毒性注意(最大6コース目まで)。 分2投与)。

B 育かん22								
	疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly Tra+S-1+CDDP療法(Tra+SP療法)				
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	21 目					
総コ	ース数	制限なし(但しCDDPは	t 6 コースまで)					
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	オランザピン	75 mg	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)		
2	テガフール・ギ	メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14		
3	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
4	生食1000 m	L	1 P	点滴静注	4時間	day 1		
5		ト125mg (day 1) 、 80 mg (day 2~3) 『タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) , day 2~3 (80 mg)		
	生食100 mL		1 P					
	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V					
_	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A	占海熱沙	20/\	Jan 1		
6	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V	点滴静注	30分	day 1		
	ホスネツピタ ※アプレピタ	ント235 mg /ント未使用の場合	1 V					
7	デキサメタゾ		2 T	経口		day 2~4		
8	トラスツズマン注射用水20	ブ(Tra)	初回8 mg/kg 2回目~6 mg/kg ※備考欄参照	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1		
	生食250 mL		1 P		>• VIII 5 INA S ///			
	シスプラチン		60 mg/m^2	上海热沙	211±188	1 1		
9	生食500 mL		1 P	- 点滴静注	2時間	day 1		
10	20%マンニト	ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1		
11	フロセミド20r		1 A	静注		day 1		
12	生食1000 m		1 P	点滴静注	6時間	day 1~3		
	生食500 mL		1 P	1/2/Ini 11. ITT	01.1 [4]	day 1 3		
	1管外漏出 リスク分類		Tra: ∮	Tra: 非炎症性 CDDP:炎症性				
催먼	上性リスク分類	V	ジメン全体: 高度(S-1: 軽度 Tra: 最小度 CDDP: 高度)					
	ラインフィルター の要不要			不要				
降は日中の眠気軽減 禁忌であり、糖尿病リス れていないため、血糖 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は 1、抗がん剤投与開始1 る。 (備考欄 ※Traの2回目以降は、 ※Traの溶解に用いる2 り、溶解後のTra濃度は ※CDDP総投与量200- ※S-1投与量は以下の2			目的のため、眠前なり、民前では、ク因子を有する患 上昇や傾眠などのは、ホスネツピタント は、ホスネツピタント は、市間~1時間30分 初回時に忍容性に 生射用水は、Tra ト は21 mg/mLとなるよ ~300 mg/m ² を超え 通りである(いずれ	ではなく夕食 含者や75歳以 う有害事象に 235 mg/day 前)、80 mg/ が良好であれ 150 mgVは1 ようにされてい こる場合は蓄 れも1日2回朝	後投与とされ 以上の高齢者 注意が必要 をday 1また day (day 2~ れば投与時 V当たり7.2 m である。 積性の神経 明夕食後の分	はアプレピタント125 mg/day (day 3、午前中) のいずれかを投与す間を30分まで短縮可能である。mL、60 mgVは1V当たり3 mLであま性注意(最大6コース目まで)。		

	かん23			T = = . =				
	疾患	胃がん	レジメン名	CAP+L-OH	IP療法(CAP	OX療法)		
		薬期間含む)	21日					
総コ	ース数	制限なし						
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	カペシタビン		※備考欄参照	経口		day 1~14		
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
	生食100 mL		1 P					
3	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	点滴静注	30分	day 1		
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V					
4	デキサメタゾ	√4 mg	2 T	経口		day 2~3		
5	オキサリプラ	チン(L-OHP)	130 mg/m^2		2時間			
	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A	点滴静注		day 1		
	5%ブドウ糖注射液250 mL		1 P	1				
6	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
	■管外漏出 リスク分類		L-OHP: 壞死性					
	上性リスク分類		レジメン全体:中等度(CAP: 軽度 L-OHP: 中等度)					
イン	ラインフィルター の要不要			不要				
	備考欄	※L-OHP総投与量800 ※CAP投与量は以下の BSA 1.	0 mg/m²を超える場 の通りである (いず 36 m²未満:2400 n	合は蓄積性 [*] れも1日2回 ng/day、BS <i>A</i>	の神経毒性 朝夕食後の 1.36 m ² 以」			

	N 702.							
	疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly	Tra+CAP+L	-OHP療法(Tra+CAPOX療法)		
1コー	-スの期間(休		21 目					
総コ	ース数	制限なし						
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	カペシタビン	(CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14		
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
	生食100 mL		1 P					
3	デキサメタゾ		1 V	点滴静注	30分	day 1		
	パロノセトロン		1 V					
4	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~3		
	トラスツズマン	ブ(Tra)	初回8 mg/kg					
5		· ,	2回目~6 mg/kg	点滴静注	90分	day 1		
	注射用水20		※備考欄参照	W(1911)	※備考欄参照	y		
	生食250 mL		1 P					
		チン(L-OHP)	130 mg/m ²	点滴静注	2時間			
6	デキサメタゾ	<u> </u>	2 A			day 1		
		主射液250 mL	1 P					
	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
	≖管外漏出 リスク分類		Tra: 非炎症性 L-OHP: 壊死性					
催吐	上性リスク分類	レジメ	ン全体:中等度(CAP: 軽度 Tra:最小度 L-OHP: 中等度)					
イン	ラインフィルター の要不要			不要				
	備考欄	※Traの溶解に用いる。り、溶解後のTra濃度は※デキサメタゾン点滴は※L-OHP総投与量800※CAP投与量は以下のBSA 1.2	注射用水は、Tra 1	50 mgVは1 こうにされてい 、L-OHPに。 計合は蓄積性 れも1日2回 ng/day、BSA	V当たり7.2 r いる。 よる静脈炎子 Eの神経毒性 朝夕食後の 1.36 m ² 以_			

	D 月ル・ル25								
	疾患	胃がん	レジメン名	S-1+L-OHF	療法(G-SO	X療法)			
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	21 日						
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	テガフール・ギン	メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14			
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
	生食100 mL		1 P						
3	デキサメタゾ		1 V	点滴静注	30分	day 1			
	パロノセトロン		1 V						
4	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~3			
	オキサリプラ	チン(L-OHP)	100 mg/m^2	点滴静注	2時間				
5	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A			day 1			
	5%ブドウ糖泡	主射液250 mL	1 P						
6	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	L管外漏出 リスク分類			L-OHP:壞	死性				
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:中	□等度(S-1: 輔	堅度 L-OHP	·: 中等度)			
	ラインフィルター の要不要			不要					
	 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※S-1投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m²未満:80 mg/day、BSA 1.25 m²以上1.5 m²未満:100 mg/day、BSA 1.5 m²以上:1 mg/day 					注意。 72投与)。			

<u> </u>	B月かん26								
対象	疾患	胃がん	レジメン名	Ram単剤療	法				
13-	-スの期間(休	薬期間含む)	14日						
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
2	ジフェンヒドラ		5 T	経口		day 1			
	ラムシルマブ(Ram)		8 mg/kg		(0/)				
3	生食250 mL		1 P ※備考欄参照	点滴静注	60分 ※備考欄参照	day 1			
4	4 生食50 mL(フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1			
	■管外漏出 リスク分類		Ram: 非炎症性						
催吐	上性リスク分類		Ram: 最小度						
イン	ラインフィルター の要不要	Ran	n投与のため、0.23	スは0.22 μm	のインラインフ	フィルターを使用			
	備考欄	ように希釈する。 ※ジフェンヒドラミンは	、Ram投与前に内	金の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなる Ram投与前に内服する。 初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。					

	D月 N-7/02/1								
	疾患	胃がん	レジメン名	Ram+weekly PTX療法					
1コー	-スの期間(休	:薬期間含む)	28日						
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1, 8, 15			
2	ジフェンヒドラ	ラミン10 mg	5 T	経口		day 1, 8, 15			
3	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15			
3	デキサメタゾ		1 V	小仙即江	30))	day 1, 8, 13			
	ラムシルマブ	(Ram)	8 mg/kg	1.34.66.33	60分				
4	生食250 mL		1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1、15			
			※備考欄参照	F 247 +47 24-		1 1 15			
5	生食50 mL(1 P	点滴静注	全開	day 1、15			
6	ファモチジン		1 A	静注		day 1, 8, 15			
7	パクリタキセル	, ,	80 mg/m^2	点滴静注	60分	day 1, 8, 15			
,	生食250 mL		1 P			•			
		(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15			
	□管外漏出 リスク分類		Ram:	非炎症性 I	TX: 壊死性				
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:	軽度(Ram:	最小度 PT	X: 軽度)			
インラ	ラインフィルター の要不要	Ram及	びPTX投与のため	、0.22 µm以	下のインライ	ンフィルターを使用			
	※Ramは、採取量と同量の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなるように希釈する。 ※ジフェンビドラミンは、Ram投与前に内服する。 ※Ramの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。								

削除 Tra+DTX療法

D L v 1055								
	疾患	胃がん	レジメン名	5-FU/l-LV排	寮法			
1コー	-スの期間(休	(薬期間含む)	56日					
総コ	ース数	制限なし						
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1, 8, 15, 22, 29, 36		
2	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15, 22, 29, 36		
	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	小桶伊在	30))	day 1, 8, 13, 22, 29, 30		
3	レボホリナー	ト(1-LV)	250 mg/m^2	点滴静注	2時間	day 1, 8, 15, 22, 29, 36		
3	生食250 mL		1 P			day 1, 8, 13, 22, 29, 30		
4	フルオロウラ	シル(5-FU)	600 mg/m^2	点滴静注	5分	Acres 1 9 15 22 20 26		
4	生食50 mL		1 P			day 1, 8, 15, 22, 29, 36		
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1, 8, 15, 22, 29, 36		
	□管外漏出 リスク分類			5-FU:炎组	定性			
催吐	上性リスク分類			5-FU: 軽	度			
インラインフィルター の要不要 不要								
	備考欄 ※5-FUの投与は、1-LV開始1時間後に開始する。							

	B目がん30								
	疾患	胃がん	レジメン名						
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	84日						
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1, 8, 15, 22, 29, 36, 43, 57, 64, 71			
2	ジフェンヒドラ	_	5 T	経口		day 1、8、15、29、36、43、 57、64、71			
3	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15, 29, 36, 43,			
3	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	小仙野丘	30))	57、64、71			
4	トラスツズマブ(Tra) 注射用水20 mL 生食250 mL		初回8 mg/kg 2回目~6 mg/kg ※備考欄参照 1 P	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1, 22, 43, 64			
5	生食50 mL(1 P	点滴静注	全開	day 1, 22, 43, 64			
	ファモチジン		1 A	静注	1.//1	day 1, 8, 15, 29, 36, 43, 57, 64,			
7	パクリタキセル 生食250 mL	ァレ(PTX)	80 mg/m ²	点滴静注	60分	day 1, 8, 15, 29, 36, 43, 57, 64, 71			
8		(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15、29、36、43、 57、64、71			
	L管外漏出 リスク分類		Tra: 🥫	华炎症性 PTX: 壊死性					
	上性リスク分類		レジメン全体:	軽度(Tra: 占	最小度 PTX	K: 軽度)			
	ラインフィルター の要不要	PTX投与	のため、day22以夕	トは0.22 μm.	以下のインラ	ラインフィルターを使用			
		※本レジメンは、Tri-w 休薬日が非常に煩雑				わせたレジメンであり、投与日及び			
			Tra :1 22 PTX:1 8 15		43 64 43 57 64				
	### ### #############################								

B胃がん/31

	がん31						
	疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly	Tra+5-FU+0	CDDP療法(Tra+FP療法)	
		薬期間含む)	21 日				
総コ	ース数	制限なし(但しCDDPに	は6コースまで)				
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	オランザピン	2	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)	
2		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5	
3	生食1000 ml	L	1 P	点滴静注	4時間	day 1	
4	※ホスネツビ	ト125 mg(day 1)、 80 mg(day 2~3) タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) 、day 2~3 (80 mg)	
	生食100 mL		1 P			day 1~5	
	デキサメタゾ		1 V			day 1.3	
5	デキサメタゾ		2 A	点滴静注	30分		
5	パロノセトロン		1 V	11// Hei H1. ITT	30)3	day 1	
	ホスネツピタ ※アプレピタ	ント235 mg ント未使用の場合	1 V			day 1	
6	トラスツズマン 注射用水20	<u> </u>	初回8 mg/kg 2回目~6 mg/kg ※備考欄参照	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1	
	生食250 mL		1 P				
7	フルオロウラシル (5-FU) 生食500 mL		800 mg/m ²	点滴静注	24時間	day 1~5	
8	シスプラチン(CDDP) 生食500 mL		80 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1	
9		ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1	
10	フロセミド20r		1 A	静注	30)	day 1	
	生食1000 ml		1 P			-	
11	生食500 mL		1 P	点滴静注	6時間	day 1~5	
	工会の記述 工管外漏出 リスク分類		Tra: 非炎症性 5-FU: 炎症性 CDDP:炎症性				
	上性リスク分類	レジ	ジメン全体:高度(フ	Γra: 最小度	5-FU:軽度	CDDP:高度)	
イン	ラインフィルター の要不要			不要			
※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、粉禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与のれていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント1 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day(day 2~3、午前中)のいる。 ※Traの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮※Traの溶解に用いる注射用水は、Tra 150 mgVは1V当たり7.2 mL、60 mgVは1Vり、溶解後のTra濃度は21 mg/mLとなるようにされている。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。				れている。また、糖尿病患者には 者に対する投与の安全性は確立さ 更である。 はアプレピタント125 mg/day (day 3、午前中)のいずれかを投与す 間を30分まで短縮可能である。 mL、60 mgVは1V当たり3 mLであ			

<u>n 14</u>	Nº1U34							
対象	疾患	胃がん	レジメン名	Weekly nab	-PTX単剤療	聚 法		
13-	-スの期間(休	薬期間含む)	28日					
総コ	ース数	制限なし						
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1, 8, 15		
2	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1, 8, 15		
	デキサメタゾ		1 V	点എ骬任	3071	day 1, 8, 13		
3	アルブミン懸	濁型パクリタキセル (nab-PTX)	100 mg/m ²	点滴静注	30分	day 1, 8, 15		
	生食100 mL	生食100 mL		Milled 111	2093	day 1, 0, 10		
4	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1, 8, 15		
	□管外漏出 リスク分類		nab-PTX: 壊死性					
催吐	上性リスク分類		nab-PTX:軽度					
	インラインフィルター の要不要		nab-PTX投与のため、インラインフィルターは <u>使用禁止</u>					
備考欄 ※nab-PTXは生食にて20 mL/Vで溶				解するが、生食の不要な残液は破棄する。				

	N-7033			557.7.7.7					
対象	対象疾患 胃がん 1		レジメン名	Nivo単剤療法(2週間隔法)					
13-	-スの期間(休	(薬期間含む)	14日	14日					
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
2	ニボルマブ((Nivo)	240 mg/body	点滴静注	30分	day 1			
	生食100 mL		1 P	火火加印北工	30%	day 1			
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	□管外漏出 リスク分類		Nivo: 非炎症性						
催吐	上性リスク分類			Nivo:最/	小度				
インラインフィルター の要不要		Ni	Nivo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用						
	備考欄								

	<i>ル¹心3</i> 4						
	疾患	胃がん	レジメン名	Tri-weekly	Tra+S-1+L-	OHP療法(Tra+G-SOX療法)	
1コー	-スの期間(休	(薬期間含む)	21 日				
総コ	ース数	制限なし					
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	テガフール・ギ	メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14	
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
	生食100 mL		1 P				
3	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	点滴静注	30分	day 1	
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V				
4	デキサメタゾ	√4 mg	2 T	経口		day 2~3	
_	トラスツズマブ(Tra)		初回8 mg/kg 2回目~ 6 mg/kg	点滴静注	90分	J 1	
5	注射用水20		※備考欄参照	点 個 評 任	※備考欄参照	day 1	
	生食250 mL		1 P				
	オキサリプラ	チン(L-OHP)	100 mg/m^2	点滴静注	2時間		
6	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A			day 1	
	5%ブドウ糖汁	生射液250 mL	1 P	1			
7	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1	
Ţ	1.管外漏出 リスク分類		Tra: 非炎症性 L-OHP: 壊死性				
催吐	上性リスク分類	レジ	メン全体:中等度(S-1: 軽度 T	ra: 最小度	L-OHP:中等度)	
インラ	ラインフィルター の要不要			不要			
	備考欄	※Traの2回目以降は、※Traの溶解に用いるり、溶解後のTra濃度は※L-OHP総投与量800※S-1投与量は以下の	初回時に忍容性だ 注射用水は、Tra 1 は21 mg/mLとなるよ) mg/m ² を超える場 通りである(いずれ	が良好であれ 50 mgVは1 こうにされてい け合は蓄積性 いも1日2回朝	nば投与時 V当たり7.2 m いる。 Eの神経毒性 明夕食後の分		

	かんろう						
, , , ,	疾患	胃がん	レジメン名	Ram+weekly nab-PTX療法			
1コー	-スの期間(休	:薬期間含む)	28日				
総コ	ース数	制限なし					
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1, 8, 15	
2	ジフェンヒドラ	ラミン10 mg	5 T	経口		day 1, 15	
3	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1 0 15	
3	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	点侧即任	3071	day 1, 8, 15	
	ラムシルマブ	(Ram)	8 mg/kg	L. 3-to-tota 3.3	60分		
4	生食250 mL		1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1, 15	
5	生食50 mL(※備考欄参照 1 P	上 点滴静注	全開	Jan. 1 15	
		ブラッシュ用り 濁型パクリタキセル	1 P	点個財任	王用	day 1, 15	
	ノアノススを	(nab-PTX)	100 mg/m^2				
6		(IIau-r I A)		点滴静注	30分	day 1, 8, 15	
	生食100 mL		1 P			·	
	生命50 …I ()	コニ い / 田 /	※備考欄参照	上海拉沙	<u> </u>	1 1 0 17	
	生食50 mL(1管外漏出	ノフツンユ用 <i>)</i> I	1 P	点滴静注		day 1, 8, 15	
	リスク分類		Ram:非	炎症性 nat	ɔ-PTX: 壊死	性	
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:軽	医度(Ram: 最	小度 nab-P	TX: 軽度)	
	Ram投与のため、Rp.3~5までは0.2又は0.22 µmのインラインフィルターを使用したルートからの投与する(制吐剤はインラインフィルターありのルートから投与し、その後Ramを投与する)。nab-PTX投与の要不要 与のため、Rp.1及び6~7はインラインフィルターを使用しないルートから投与する(インラインフィルターなし側からルートキープを行い、このルートからnab-PTXを投与する)。						
※Ramは、採取量と同量の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなように希釈する。 ※ジフェンヒドラミンは、Ram投与前に内服する。 ※Ramの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※nab-PTXは生食にて20 mL/Vで溶解するが、生食の不要な残液は破棄する。					間を30分まで短縮可能である。		

<u> </u>	かんろり						
	疾患	胃がん	レジメン名 l-LV+L-OHP+5-FU療法(mFOLFOX6療法)				
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	14日				
総コ	ース数	制限なし					
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
	生食100 mL		1 P				
2	デキサメタゾ		1 V	点滴静注	30分	day 1	
	パロノセトロン		1 V	<i>t</i> ==			
3	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~3	
4	レボホリナー	├ (1-LV)	200 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1	
	生食250 mL		1 P				
	オキサリプラ	チン(L-OHP)	85 mg/m ²				
5	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A	点滴静注	2時間	day 1	
	5%ブドウ糖泡	主射液250 mL	1 P				
6	フルオロウラ	シル(5-FU)	400 mg/m^2	点滴静注	全開	day 1	
U	生食50 mL		1 P		土用	uay 1	
7	フルオロウラ	, ,	2400 mg/m ²	持続静注	46時間	day 1	
	生食250 mL		※備考欄参照			<u> </u>	
	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1	
	□管外漏出 リスク分類		L-OHI	P: 壊死性 5	5-FU: 炎症性		
催吐	上性リスク分類		レジメン全体:中	等度(L-OHI	P: 中等度 5	-FU:軽度)	
インラ	ラインフィルター の要不要			不要			
	※1-LVとL-OHPは、同時に投与開始する。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプ 用いて投与開始し46時間かけて投与する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。						

削除 TAS-102単剤療法

	DH 2-7030								
			レジメン名	Nivo単剤療法(4週間隔法)					
13-	-スの期間(休	薬期間含む)	28日						
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
2	ニボルマブ(Nivo)	480 mg/body	→ 点滴静注	30分	day 1			
	生食100 mL	生食100 mL		尽闹肝任	30)	day 1			
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	□管外漏出 リスク分類		Nivo: 非炎症性						
催吐	上性リスク分類		Nivo:最小度						
インラインフィルター の要不要 Ni		vo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用							
	備考欄								

B 目 が かんこう									
対象疾患 胃がん		レジメン名	Ram+CPT-11療法						
1コー	-スの期間(休	(薬期間含む)	14日						
総コ	総コース数制限なし								
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
2	ジフェンヒドラ	ラミン10 mg	5 T	経口		day 1			
	生食100 mL		1 P	点滴静注	20/\				
3	デキサメタゾン6.6 mg		1 V						
3	デキサメタゾ		2 A	点倾即任	30分	day 1			
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V						
4	デキサメタゾ	√4 mg	2 T	経口		day 2~3			
	ラムシルマフ	F(Ram)	8 mg/kg		60分 ※備考欄参照	day 1			
5	生食250 mL		1 P ※備考欄参照	点滴静注					
6	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
7	, イリノテカン (CPT-11) 生食250 mL		150 mg/m ²	点滴静注	90分	day 1			
8	· · ·		1 P	点滴静注	全開	day 1			
血管外漏出 リスク分類			Ram: 非炎症性 CPT-11: 炎症性						
催吐	催吐性リスク分類 レジメン全体:中等度(Ram: 最小度 CPT-11: 中等度)								
イン	インラインフィルター の要不要 Ram投与のため、0.22 μm以下のインラインフィルターを使用								
	※Ramは、採取量と同量の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなるように希釈する。※ジフェンヒドラミンは、Ram投与前に内服する。※Ramの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。								

B 胃かん40							
対象疾患 胃がん			レジメン名	T-DXd単剤療法			
1コースの期間(休薬期間含む)			21日				
総コース数制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
	5%ブドウ糖注射液100 mL		1 P	· 点滴静注	30分	day 1	
2	デキサメタゾン6.6 mg		1 V				
2	デキサメタゾ	<u> </u>	2 A	小火1回 日上 1丁	3071	day 1	
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V				
3	デキサメタゾ	<u> </u>	2 T	経口		day 2~3	
	トラスツズマン	ブ デルクステカン	6.4 mg/kg		90分	day 1	
4		(T-DXd)	0.4 mg/kg	点滴静注			
		注射用水20 mL		尽何肝任	※備考欄参照	uay 1	
	5%ブドウ糖泡	主射液100 mL	1 P]			
		主射液100 mL	1 P	点滴静注	全開	day 1	
血管外漏出 リスク分類			T-DXd:炎症性				
T-DXd:中等度 ※必要に応じてNK ₁ 受容体拮抗薬の追加を考慮すること。 さらに、オランザピンの併用も有用と考えられている(糖尿薬患者では禁忌)。 (NCCN等海外ガイドラインでは高度扱いのこともあり)。						唐尿薬患者では禁忌)。	
	インラインフィルター の要不要 T-DXd投与のため、0.2 μmのインラインフィルターを使用						
	※T-DXdの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※T-DXdの溶解に用いる注射用水は、T-DXd 100 mgV 1V当たり5 mLであり、溶解後のT-DXd濃度は20 mg/mLとなる。 ※投与に際して、点滴バッグの遮光が必要である。 ※T-DXdの補液以外にも、制吐剤用の補液、フラッシュ用の輸液も5%ブドウ糖注射液を用いるため 注意が必要である。						

	疾患	胃がん	レジメン名	Nivo+S-1+l	L-OHP療法	(Nivo+G-SOX療法)		
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	21日					
	総コース数制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	テガフール・ギ	メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14		
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
	生食100 mL		1 P		30分	day 1		
3	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	点滴静注				
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V					
4	デキサメタゾ		2 T	経口		day 2~3		
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
6	ニボルマブ(Nivo)		360 mg/body	点滴静注	30分	day 1		
U	生食100 mL		1 P	尽闹肝任	3071	uay 1		
7	生食50 mL(フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1		
	オキサリプラチン(L-OHP)		100 mg/m^2					
8	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A	点滴静注	2時間	day 1		
		主射液250 mL	1 P					
9	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
	血管外漏出 リスク分類		Nivo: 非炎症性 L-OHP: 壊死性					
催吐性リスク分類 レジメン全体:中等度(Nivo: 最小度 S-1: 軽度 L-OHP: 中等度)				L-OHP: 中等度)				
	ラインフィルター の要不要	Niv	vo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用					
	 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※S-1投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 BSA 1.25 m²未満:80 mg/day、BSA 1.25 m²以上1.5 m²未満:100 mg/day、BSA 1.5 m²以上:120 mg/day 							

対象疾患 胃がん			レジメン名	Nivo+CAP+L-OHP療法(Nivo+CAPOX療法)				
			21日					
	総コース数 制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	カペシタビン	(CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14		
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
	生食100 mL		1 P					
3	デキサメタゾ		1 V	点滴静注	30分	day 1		
	パロノセトロン		1 V					
4	デキサメタゾ		2 T	経口		day 2~3		
5	生食50 mL(1 P	点滴静注	全開	day 1		
6	ニボルマブ(360 mg/body	点滴静注	30分	day 1		
	生食100 mL		1 P					
7	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
	オキサリプラ	チン(L-OHP)	130 mg/m^2	点滴静注	2時間	day 1		
8	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A					
	5%ブドウ糖泡	主射液250 mL	1 P					
9	生食50 mL(フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1		
血管外漏出 リスク分類 Nivo: 非炎症性 L-OHP: 壊死性					生			
	上性リスク分類	レジメ	ン全体:中等度(Nivo: 最小度 CAP: 軽度 L-OHP: 中等度)					
	ラインフィルター の要不要	Niv	vo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用					
	 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 ※CAP投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)(C法)。 BSA 1.36 m²未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m²以上1.66 m²未満: 3000 mg/day、BSA 1.66 m²以上1.96 m²未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m²以上: 4200 mg/day 					注注意。 分2投与) (C法)。 .66 m²未満: 3000 mg/day、		

B月かん43								
対象疾患 胃がん			レジメン名 Nivo+l-LV+L-OHP+5-FU療法(Nivo+mFOLFOX6療法)					
	1コースの期間(休薬期間含む) 14日							
総コース数制限なし								
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
	生食100 mL		1 P					
2	デキサメタゾン6.6 mg		1 V	点滴静注	30分	day 1		
	パロノセトロン0.75 mg		1 V					
3	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~3		
4	生食50 mL()	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
5	ニボルマブ(Nivo)	240 mg/body	点滴静注	30分	1 1		
	生食100 mL		1 P		30万	day 1		
6	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
7	レボホリナート(l-LV)		200 mg/m^2	点滴静注	2時間	day 1		
/	生食250 mL		1 P		∠時間			
	オキサリプラ	チン(L-OHP)	85 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1		
8	デキサメタゾ	∠1.65 mg	2 A					
	5%ブドウ糖注射液250 mL		1 P			•		
	フルオロウラシル (5-FU)		400 mg/m^2	点滴静注	全開	day 1		
9	生食50 mL		1 P					
	フルオロウラ	S.n.(5 EU)						
10	生食250 mL		2400 mg/m ²	持続静注	46時間	day 1		
			※備考欄参照 1 P	上次软沙	人田	J 1		
	生食50 mL() L管外漏出	ノフツンユ用丿	<u> </u>	点滴静注		day 1		
	リスク分類		Nivo:非炎症性	E L-OHP:	裹死性 5-FU	J:炎症性		
	催吐性リスク分類 レジメン全体:中等度(Nivo: 最小度 L-OHP: 中等度 5-FU:軽度)							
	インラインフィルター の東不再 Nivo投与のため、0.2又は0.22 μmインラインフィルターを使用							
	の要不要 Nivo 技 与 の に め、 0.2 文 は 0.2 2 μmイン フィン ノイル ター を 使 用							
	 ※1-LVとL-OHPは、同時に投与開始する。 ※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 ※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプを用いて投与開始し46時間かけて投与する。 ※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 							

	かん44						
	疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+5-FU+CDDP療法(Pembro+FP療法)			
1コー		薬期間含む)	21日				
総コ	ース数	6コース					
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	オランザピン		1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)	
2		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5	
3	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 1	
		\vdash 125 mg(day 1),					
4		80 mg (day 2~3)	1 Cap	経口		day 1 (125 mg), day 2~3 (80 mg)	
		゚タント未使用の場合					
	生食100 mL		1 P	_		day 1~5	
	デキサメタゾ		1 V]		day 13	
5	デキサメタゾ		2 A	点滴静注	30分		
	パロノセトロン		1 V	1// Jinj H1, IT	30),	day 1	
	ホスネツピタ		1 V			day 1	
		ント未使用の場合		L. 2-4-4-6-3/3			
6	生食50 mL()		1 P	点滴静注	全開	day 1	
7		マブ (Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1	
	生食100 mL		1 P			·	
8	生食50 mL()		1 P	点滴静注	全開	day 1	
9	フルオロウラ		800 mg/m^2	点滴静注	24時間	day 1~5	
	生食500 mL		1 P		* // *	,	
10	シスプラチン		80 mg/m^2	点滴静注	2時間	day 1	
10	生食500 mL		1 P			day 1	
11	20%マンニト		0.66 P	点滴静注	30分	day 1	
12	フロセミド20n	· ·	1 A	静注		day 1	
13	生食1000 mI	L	1 P	点滴静注	6時間	day 1~5	
	生食500 mL		1 P	W/山山山, 口工	01.1 [4]	duy 1 3	
	1管外漏出 リスク分類		Pembro: 非炎症	性 5-FU: 纷	を症性 CDI	DP:炎症性	
催吐	上性リスク分類	レジ	メン全体:高度(Pe	mbro: 最小月	度 5-FU:軽	度 CDDP:高度)	
	ラインフィルター の要不要	Pe	embro投与のため、	, 0.2~5 μm	インラインフィ	イルターを使用	
※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、 降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者 禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性はれていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。 ※NK ₁ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中)のいずれかを投る。 ※CDDP総投与量200~300 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。				れている。また、糖尿病患者には 者に対する投与の安全性は確立さ 長である。 はアプレピタント125 mg/day (day 3、午前中)のいずれかを投与す			

	B胃がん45								
		胃がん	レジメン名	Pembro+S-	1+CDDP療剂	法(Pembro+SP療法)			
		:薬期間含む)	21 日						
総コ	ース数	6コース							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	オランザピン	U	1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)			
2	テガフール・ギノ	メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14			
3		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
4	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 1			
5	※ホスネツピ	ト125mg(day 1)、 80 mg(day 2~3) タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) , day 2~3 (80 mg)			
	生食100 mL		1 P						
	デキサメタゾ		1 V						
6	デキサメタゾ	<u> </u>	2 A	点滴静注	30分	day 1			
	パロノセトロン		1 V	火火1回 自五 1丁	30/1	day 1			
	ホスネツピタ、 ※アプレピタ	ント235 mg シト未使用の場合	1 V						
7	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~4			
8	生食50 mL(1 P	点滴静注	全開	day 1			
9	ペムブロリズ 生食100 mL	マブ (Pembro)	200 mg/body 1 P	点滴静注	30分	day 1			
10	生食50 mL()		1 P	点滴静注	全開	day 1			
11	シスプラチン		60 mg/m^2	点滴静注	2時間	·			
11	生食500 mL	₹500 mL 1 P	1 P	小心的肝仁	乙叶间	day 1			
12	20%マンニト	ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1			
13	フロセミド20n	ng	1 A	静注		day 1			
14	生食1000 ml		1 P	点滴静注	6時間	day 1 2			
	生食500 mL		1 P	点 们 肝 任	0h4月1	day 1~3			
	1管外漏出 リスク分類		Pembro:	非炎症性	CDDP:炎症	性			
	上性リスク分類	レジ	メン全体:高度(S-	-1: 軽度 Per	mbro:最小原	度 CDDP: 高度)			
インラ	ラインフィルター の要不要	Pe	embro投与のため、	0.2~5 μm	インラインフィ	イルターを使用			
 ※オランザピンは、1日降は日中の眠気軽減し禁忌であり、糖尿病リスれていないため、血糖・※NK₁受容体拮抗薬に加えが、1、抗がん剤投与開始1る。 ※CDDP総投与量200・※S-1投与量は以下の 			目的のため、眠前 ベク因子を有する患 上昇や傾眠などの は、ホスネツピタン 1時間~1時間30分 ~300 mg/m ² を超え 通りである(いずれ	ではなく夕食 は名や75歳以 有害事象に 235 mg/day 前)、80 mg/ る場合は蓄 でも1日2回朝	後投与とされ 人上の高齢者 注意が必要をday 1また day (day 2~ 積性の神経 用夕食後の分	はアプレピタント125 mg/day (day 3、午前中) のいずれかを投与す (毒性注意(最大6コース目まで)。			

	がん46	-					
		胃がん	レジメン名				
		薬期間含む)	21日				
総コ	ース数	6コース					
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	オランザピン		1 T	経口		day 1~4 (Max day 1~6)	
2	カペシタビン		※備考欄参照	経口		day 1~14	
3	·	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
4	生食1000 ml		1 P	点滴静注	4時間	day 1	
5		ト125mg(day 1)、 80 mg(day 2~3) パタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) , day 2~3 (80 mg)	
	生食100 mL		1 P				
	デキサメタゾ		1 V				
	デキサメタゾ	· · ·	2 A	1.34.16.33			
6	パロノセトロン		1 V	点滴静注	30分	day 1	
	ホスネツピタ	ハロノビトロン0.73 mg ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合					
7	デキサメタゾ		2 T	経口		day 2~4	
8		<u>。</u> フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1	
		マブ (Pembro)	200 mg/body			·	
9	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1	
10	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1	
11	シスプラチン 生食500 mL		80 mg/m ²	- 点滴静注	2時間	day 1	
12		ール 300 mL	0.66 P	点滴静注	30分	day 1	
	フロセミド20r		1 A	静注		day 1	
	生食1000 ml	0	1 P		6時間	day 1~3	
14	生食500 mL		1 P	点滴静注			
	1管外漏出		Pembro: 非炎症性 CDDP:炎症性				
	上性リスク分類	レジ	メン全体:高度(CA	AP: 軽度 Pe	embro:最小	度 CDDP: 高度)	
	ラインフィルター の要不要	Po	embro投与のため、	$0.2^{5} \mu m$	インラインフィ	イルターを使用	
	備考欄	降は日中の眠気軽減 禁忌であり、糖尿病リン れていないため、血糖 ※NK ₁ 受容体拮抗薬/ 1、抗がん剤投与開始 る。 ※CDDP総投与量200 ※CAP投与量は以下の BSA 1.36	目的のため、眠前でスク因子を有する患 上昇や傾眠などのま、ホスネツピタン 1時間~1時間30分 ~300 mg/m²を超え の通りである(いず m²未満:2400 mg/	ではなく夕食 含者や75歳以 う有害事象に ト235 mg/day 前)、80 mg/ こる場合は蓄 *れも1日2回 /day、BSA 1	後投与とされ 人上の高齢者 注意が必要 をday 1また day (day 2~ 積性の神経 朝夕食後の .36 m ² 以上1	はアプレピタント125 mg/day (day 3、午前中) のいずれかを投与す 番性注意(最大6コース目まで)。	

<u>n 13</u>	B月かん47								
	疾患	胃がん	レジメン名 Pembro+S-1+L-OHP療法(Pembro+G-SOX療法)						
		薬期間含む)	21 日						
総コ	ース数	6コース							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	テガフール・ギン	メラシル・オテラシルカリウム (S-1)	※備考欄参照	経口		day 1~14			
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
	生食100 mL		1 P						
3	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	点滴静注	30分	day 1			
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V						
4	デキサメタゾ		2 T	経口		day 2~3			
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
6		マブ (Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1			
0	生食100 mL		1 P			day i			
7	生食50 mL(1 P	点滴静注	全開	day 1			
	オキサリプラ	チン(L-OHP)	100 mg/m^2	点滴静注	2時間				
8	デキサメタゾ		2 A			day 1			
	5%ブドウ糖泡	主射液250 mL	1 P						
9	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	1管外漏出 リスク分類		Pembro:	非炎症性」	L-OHP: 壊死	性			
	上性リスク分類	レジメン	/全体:中等度(Pe	embro: 最小/	度 S-1: 軽度	L-OHP: 中等度)			
	ラインフィルター の要不要	Pe	embro投与のため、	. 0.2~5 μm	インラインフィ	ルターを使用			
※L-OHP総投与量800備考欄※S-1投与量は以下の			静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。 mg/m ² を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。 通りである (いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上1.5 m ² 未満:100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上:120						

B月かん48								
	疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+CA	AP+L-OHP病	景法(Pembro+CAPOX療法)		
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	21日					
総コ	ース数	6コース						
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	カペシタビン		※備考欄参照	経口		day 1~14		
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
	生食100 mL		1 P					
3	デキサメタゾ		1 V	点滴静注	30分	day 1		
	パロノセトロン	∕0.75 mg	1 V					
4	デキサメタゾ	ン4 mg	2 T	経口		day 2~3		
5	生食50 mL(1 P	点滴静注	全開	day 1		
6	ペムブロリズ	マブ(Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1		
O	生食100 mL		1 P		3071	day 1		
7	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
	オキサリプラ	チン(L-OHP)	130 mg/m^2					
8	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A	点滴静注	2時間	day 1		
		主射液250 mL	1 P	1				
9	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
	1管外漏出		Pembro:	•	L-OHP: 壊死			
]	リスク分類		T CHIOIO.	外处址江	L-OIII .级元	- 1		
催吐	上性リスク分類	レジメン	全体:中等度(Per	mbro: 最小度	E CAP: 軽度	度 L-OHP: 中等度)		
インラ	ラインフィルター の要不要	Pe	embro投与のため、	, 0.2~5 μm	インラインフィ	パルターを使用		
※L-OHP総投与量800※CAP投与量は以下のBSA 1.36 r) mg/m ² を超える場 の通りである(いず m ² 未満:2400 mg/	号合は蓄積性 [*] れも1日2回 day、BSA 1.	の神経毒性 朝夕食後の 36 m ² 以上1.			

DH N-1042									
	疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+5-FUメンテナンス療法					
1コー	-スの期間(休	(薬期間含む)	21日						
総コ	総コース数制限なし								
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5			
2	生食100 mL		1 P	点滴静注	30分	day 1~5			
	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V	尽闹肝任		day 1~3			
3		フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
4	ペムブロリズ	マブ(Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1			
4	生食100 mL	ı	1 P			uay 1			
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
6	フルオロウラ	シル(5-FU)	800 mg/m^2	↓ 点滴静注	24時間	day 1~5			
0	生食500 mL		1 P	一点個財任		day 1~3			
7	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1~5			
	L管外漏出 リスク分類		Pembro	: 非炎症性	5-FU: 炎症·	性			
催吐	催吐性リスク分類 レジメン全体:軽度(Pembro: 最小度 5-FU:軽度)								
インラ	インラインフィルター の要不要 Pembro投与のため、0.2~5 μmインラインフィルターを使用					イルターを使用			
	備考欄 ※本レジメンは、B44 Pembro+FP療法後に用いるレジメンである。								

	D 17 x 70 50								
	疾患	胃がん	レジメン名	/名 Pembro+S-1メンテナンス療法					
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	21日						
総コ	ース数	制限なし							
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム (S-1)		※備考欄参照	経口		day 1~14			
2	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
6	ペムブロリズ	マブ(Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1			
O	生食100 mL		1 P	从何伊住	307)	day 1			
9	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
	1管外漏出 リスク分類		Pembro: 非炎症性						
催吐	上性リスク分類	% S	レジメン全体:最小度(Pembro: 最小度 S-1: 軽度) 3-1は内服薬のためルーチンの制吐療法は最小度に準ずる						
インラ	ラインフィルター の要不要	Pe	mbro投与のため、	0.2~5 μm	インラインフィ	パルターを使用			
	備考欄	※S-1投与量は以下の	45 Pembro+SP療法、B47 Pembro+G-SOX療法後に用いるレジメンである。 下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)。 :80 mg/day、BSA 1.25 m ² 以上1.5 m ² 未満:100 mg/day、BSA 1.5 m ² 以上:120						

υĦ	かんシュ							
対象	疾患	胃がん	レジメン名	Pembro+CAPメンテナンス療法				
1コー	-スの期間(休	薬期間含む)	21 日					
総コ	ース数	制限なし						
Rp.	Rp. 薬剤名		1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	カペシタビン	(CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14		
2		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
6	ペムブロリズ	マブ (Pembro)	200 mg/body	点滴静注	30分	day 1		
U	生食100 mL		1 P	从倘靜往	30);	day i		
	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
	□管外漏出 リスク分類		Pembro: 非炎症性					
催吐	上性リスク分類	ЖС.	レジメン全体:最小度(Pembro: 最小度 CAP: 軽度) APは内服薬のためルーチンの制吐療法は最小度に準ずる					
インラ	ラインフィルター の要不要	Pe	embro投与のため、	0.2~5 μm	インラインフィノ	レターを使用		
	備考欄	※CAP投与量は以下の BSA 1.36 p	の通りである (いず m ² 未満:2400 mg/o	れも1日2回 day、BSA 1.	朝夕食後の分 36 m²以上1.6	後に用いるレジメンである。 分2投与)(C法)。 6 m²未満:3000 mg/day、 96 m²以上:4200 mg/day		

	かん52					
対象		胃がん	レジメン名	Zolbe+l-LV	+L-OHP+5-	FU療法(Zolbe+mFOLFOX6療法)
	-スの期間(休		14日			
総コ	ース数	制限なし				
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	オランザピン	5 mg	1 T	経口		day1~4 (Max day 1~6) 又は day 0~4 (Max day 0~5)
2	ジフェンヒドラ	ミン10 mg	5 T	経口		day 1
3	生食250 mL((ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
4	※ ホスネツピ:	ト125 mg(day 1)、 80 mg(day 2~3) タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) , day 2~3 (80 mg)
	生食100 mL		1 P			
	デキサメタゾン		1 V			
5	パロノセトロン		1 V	点滴静注	30分	day 1
	ホスネツピタン ※アプレピタン	/ト235 mg //ト未使用の場合	1 V			
6	デキサメタゾン	∕4 mg	2 T	経口		day 2~4
7	ファモチジン	20 mg	1 A	静注		day 1
8	生食50 mL()	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
9	ゾルベツキシ 注射用水 生食	マブ (Zolbe)	初回800 mg/m ² 2回目~ 400 mg/m ² ※備考欄参照 ※備考欄参照	点滴静注	※備考欄参照	day 1
10	<u>土政</u> 生食50 mL(こ	フラッパンュ 田)	1 P	占海語注	※備考欄参照	day 1
10	レボホリナー			小個師工	A I用"与1附参加	uay 1
11	生食250 mL	·(I-LV)	200 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 1
12	オキサリプララデキサメタゾン 5%ブドウ糖注	∕1.65 mg	85 mg/m ² 2 A 1 P	点滴静注	2時間	day 1
13	フルオロウラミ 生食50 mL	ンル (5-FU)	400 mg/m ²	点滴静注	全開	day 1
14	フルオロウラミ 生食250 mL	ンル (5-FU)	2400 mg/m ² ※備考欄参照	持続静注	46時間	day 1
15	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
	L管外漏出 リスク分類		Zolbe:非炎症性	Ł L-OHP:	壊死性 5-F	U:炎症性
催吐	:性リスク分類	レジ	メン全体:高度(Zc	olbe: 高度 I	L-OHP:中等	度 5-FU:軽度)
	インラインフィルター Zolbe投与のため、0.2 μmインラインフィルターを使用 の要不要 (添付文書にはないがインタビューフォームで推奨あり)					

※ルートキープ用の生食は、投与時の悪心嘔吐の際の時間稼ぎでも使用するため、250 mLとなっているため注意が必要である。

※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。また、当レジメンでは従来の使用法以外に、前日(day 0)の夕食後からの5日間(day 4まで)の投与も推奨されており、状況に応じて考慮すること。
※NK、受容体持拉薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day(day 1 拉

※NK₁受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。

※Zolbeは、100 mgVでは5 mL、300 mgVでは15 mLの注射用水で溶解し、溶解後の濃度は20 mg/mLとなる。また、補液の生食は、Zolbeの濃度が2~5 mg/mLとなるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように10倍希釈(2 mg/mL)することとする。

備考欄

※Zolbeの投与速度は、初回は100 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、200~400 mg/m²/hrまで上げることが出来る。2回目以降は、50 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、100~200 mg/m²/hrまで上げることが出来る。当院では、開始60分後から投与速度を上げられることとする。但し、投与開始後60分以内にGrade 2以上の悪心嘔吐があった場合は、Grade 1以下回復後半分の速度で15分間投与し、元の速度に戻す。また、Grade 4の嘔吐では投与中止すること。詳細は速度管理表を参照すること。

※Zolbeの調製後の保存は室温で6時間まで、2~8℃で24時間までとなっているので、悪心嘔吐による 投与中断時には注意すること。

※Zolbe投与後のフラッシュは、Zolbeの最終投与速度に合わせること(投与直後の点滴速度変化により悪心を惹起する可能性があるため(メーカーより))。

※I-LVとL-OHPは、同時に投与開始する。

※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。

※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプを用いて投与開始し46時間かけて投与する。

※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。

B胃がん53 削除 Zolbe+l-LV+L-OHP+5-FU療法(Zolbe+mFOLFOX6療法)(Zolbe 3週

D H	ル・N-34							
	疾患 胃がん	レジメン名	レジメン名 Zolbe+CAP+L-OHP療法(Zolbe+CAPOX療法)					
1コー	-スの期間(休薬期間含む)	21日						
総コ、	ース数制限なし							
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	カペシタビン (CAP)	※備考欄参照	経口		day 1~14			
2	オランザピン5 mg	1 T	経口		day1~4 (Max day 1~6) 又は day 0~4 (Max day 0~5)			
3	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口		day 1			
4	生食250 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1			
5	アプレピタント125 mg(day 1)、 80 mg(day 2~3) ※ホスネツピタント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) 、day 2~3 (80 mg)			
	生食100 mL	1 P						
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V		30分	day 1			
6	パロノセトロン0.75 mg	1 V	点滴静注					
	ホスネツピタント235 mg ※アプレピタント未使用の場合	1 V						
7	デキサメタゾン4 mg	2 T	経口		day 2~4			
8	ファモチジン20 mg	1 A	静注		day 1			
9	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
10	ブルベツキシマブ (Zolbe)注射用水生食	初回800 mg/m ² 2回目~600 mg/m ² ※備考欄参照 ※備考欄参照	点滴静注	※備考欄参照	day 1			
11	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1			
12	オキサリプラチン(L-OHP) デキサメタゾン1.65 mg 5%ブドウ糖注射液250 mL	130 mg/m ² 2 A 1 P	点滴静注	2時間	day 1			
13	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1			
1	血管外漏出 リスク分類 Zolbe:非炎症性 L-OHP:壊死性							
1隹吐	:性リスク分類 レシ	///王冲:	DIDE: 尚及	L-UHP: 甲等	F皮 UAP: 蛭皮/			
	Zolbe投与のため、0.2 μmインラインフィルターを使用 の要不要 (添付文書にはないがインタビューフォームで推奨あり)							

※ルートキープ用の生食は、投与時の悪心嘔吐の際の時間稼ぎでも使用するため、250 mLとなっているため 注意が必要である。

※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。また、当レジメンでは従来の使用法以外に、前日(day 0)の夕食後からの5日間(day 4まで)の投与も推奨されており、状況に応じて考慮すること。

※NK₁受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。

※Zolbeは、100 mgVでは5 mL、300 mgVでは15 mLの注射用水で溶解し、溶解後の濃度は20 mg/mLとなる。また、補液の生食は、Zolbeの濃度が $2\sim5 \text{ mg/mL}$ となるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように10倍希釈 (2 mg/mL) することとする。

備考欄

※Zolbeの投与速度は、初回は100 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、200~400 mg/m²/hrまで上げることが出来る。2回目以降は、75 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、150~300

mg/m²/hrまで上げることが出来る。当院では、開始60分後から投与速度を上げられることとする。但し、投与開始後60分以内にGrade 2以上の悪心嘔吐があった場合は、Grade 1以下回復後半分の速度で15分間投与し、元の速度に戻す。また、Grade 4の嘔吐では投与中止すること。詳細は速度管理表を参照すること。

※Zolbeの調製後の保存は室温で6時間まで、2~8℃で24時間までとなっているので、悪心嘔吐による投与中断時には注意すること。

※Zolbe投与後のフラッシュは、Zolbeの最終投与速度に合わせること(投与直後の点滴速度変化により悪心を 惹起する可能性があるため(メーカーより))。

※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。

※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。

※CAP投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)(C法)。

BSA 1.36 m²未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m²以上1.66 m²未満: 3000 mg/day、BSA 1.66 m²以上1.96 m²未満: 3600 mg/day、BSA 1.96 m²以上: 4200 mg/day

之 [3. 対象	かん55 疾患	 胃がん	レジメン名	Zolbe+l-LV+L-OHP+5-FU療法(Zolbe+mFOLFOX6療法)			
			·			(2日間版)	
		薬期間含む)	14日				
	ース数	制限なし	1日机上目	- 1Π, - 1 >/ - 1	∔Л, ⊢ п+ HH	10. F D	
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
	オランザピン		1 T	経口		day1~4 (Max day 1~6) 又は day 0~4 (Max day 0~5)	
	ジフェンヒドラ		5 T	経口		day 1	
_		(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1	
4		,(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 2	
5		ト125 mg (day 1)、 80 mg (day 2~3) 『タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg), day 2~3 (80 mg)	
	生食100 mL		1 P			1 1 2	
	デキサメタゾ	ン6.6 mg	1 V			day 1~2	
_	デキサメタゾ	ン1.65 mg	2 A	点滴静注	201		
6	パロノセトロン0.75 mg		1 V		30分		
	ホスネツピタ		1 V			day 1	
7	デキサメタゾ		2 T	経口		day 3~4	
	ファモチジン	<u> </u>	1 A	静注		day 1	
		フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1	
10	ゾルベツキシ	ノマブ (Zolbe)	初回800 mg/m ² 2回目~ 400 mg/m ²		※備考欄参照	•	
	注射用水		※備考欄参照	7///////////		,	
	生食		※備考欄参照				
		フラッシュ用)	1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1	
12	レボホリナー 生食250 mL		200 mg/m ²	点滴静注	2時間	day 2	
	オキサリプラ デキサメタゾ	チン(L-OHP)	85 mg/m ² 2 A	点滴静注	2時間	day 2	
13	5%ブドウ糖>	<u>シ1.05 mg</u> 生射液250 mL	1 P	100 Heat 111. 177	2: 3 [6]		
14	フルオロウラ 生食50 mL		400 mg/m^2	点滴静注	全開	day 2	
	フルオロウラ		1 P 2400 mg/m ²	持続静注	46時間	day 2	
	生食250 mL		※備考欄参照			<u> </u>	
		フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 2	
	L管外漏出 Jスク分類		Zolbe:非炎症性	Ł L-OHP:	壊死性 5-F	U:炎症性	
催吐	性リスク分類	レジ	メン全体:高度(Zc	olbe: 高度 I	L-OHP: 中等	度 5-FU:軽度)	
Zolbe投与のため、0.2 μmインラインフィルターを使用 の要不要 (添付文書にはないがインタビューフォームで推奨あり)							

※当レジメンは、Zolbeによる悪心嘔吐のため投与終了までの時間が掛かりすぎるのを考慮し、B52 Zolbe+mFOLFOX6療法を2日間に分けたレジメンである。

※Day 1のルートキープ用の生食は、投与時の悪心嘔吐の際の時間稼ぎでも使用するため、250 mLとなっているため注意が必要である。

※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。また、当レジメンでは従来の使用法以外に、前日(day 0)の夕食後からの5日間(day 4まで)の投与も推奨されており、状況に応じて考慮すること。

 $%NK_1$ 受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん 剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。

※Zolbeは、100 mgVでは5 mL、300 mgVでは15 mLの注射用水で溶解し、溶解後の濃度は20 mg/mLとなる。また、補液の生食は、200 Zolbeの濃度が2 mg/mLとなるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように200 Zolbeの場所(200 mg/mL) することとする。

備考欄

※Zolbeの投与速度は、初回は100 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、200~400 mg/m²/hrまで上げることが出来る。2回目以降は、50 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、100~200

mg/m²/hrまで上げることが出来る。当院では、開始60分後から投与速度を上げられることとする。但し、投与開始後60分以内にGrade 2以上の悪心嘔吐があった場合は、Grade 1以下回復後半分の速度で15分間投与し、元の速度に戻す。また、Grade 4の嘔吐では投与中止すること。詳細は速度管理表を参照すること。

※Zolbeの調製後の保存は室温で6時間まで、2~8℃で24時間までとなっているので、悪心嘔吐による投与中断時には注意すること。

※Zolbe投与後のフラッシュは、Zolbeの最終投与速度に合わせること(投与直後の点滴速度変化により悪心を惹起する可能性があるため(メーカーより))。

※I-LVとL-OHPは、同時に投与開始する。

※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。

※5-FUの持続静注分は、全量230 mLとなるように調製し、bolus投与後にインフューザーポンプを用いて投与開始し46時間かけて投与する。

※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。

	かんろり							
		胃がん	レジメン名 Zolbe+CAP+L-OHP療法(Zolbe+CAPOX療法)(2日間					
	-スの期間(休		21日					
総コ、	ース数	制限なし						
Rp.		薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	カペシタビン	(CAP)	※備考欄参照	経口		day 2~15		
2	オランザピン:	5 mg	1 T	経口		day1~4 (Max day 1~6) 又は day 0~4 (Max day 0~5)		
3	ジフェンヒドラ	ミン10 mg	5 T	経口		day 1		
4	生食250 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1		
5	生食100 mL	(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 2		
6	※ホスネッピ	ト125 mg(day 1)、 80 mg(day 2~3) タント未使用の場合	1 Cap	経口		day 1 (125 mg) 、day 2~3 (80 mg)		
	生食100 mL		1 P			day 1~2		
	デキサメタゾン6.6 mg		1 V			day 1~2		
7	デキサメタゾン1.65 mg		2 A	点滴静注	30分			
,	パロノセトロン		1 V	-	30)3	day 1		
		ント未使用の場合	1 V			day 1		
8	デキサメタゾ		2 T	経口		day 3~4		
9	ファモチジン	20 mg	1 A	静注		day 1		
10	生食50 mL()	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1		
11	ゾルベツキシ 注射用水 生食	. ,	初回800 mg/m ² 2回目~600 mg/m ² ※備考欄参照 ※備考欄参照		※備考欄参照	day 1		
12	生食50 mL()	フラッシュ用)	1 P	点滴静注	※備考欄参照	day 1		
13	オキサリプララデキサメタゾ、 5%ブドウ糖油		130 mg/m ² 2 A 1 P	点滴静注	2時間	day 2		
14	生食50 mL()		1 P	点滴静注	全開	day 2		
Ú	1管外漏出リスク分類				-OHP:壊死	•		
催吐	性リスク分類	レシ	ジメン全体:高度(Zo					
インラ	Zolbe投与のため、0.2 μmインラインフィルターを使用 の要不要 (添付文書にはないがインタビューフォームで推奨あり)							

※当レジメンは、Zolbeによる悪心嘔吐のため投与終了までの時間が掛かりすぎるのを考慮し、B54 Zolbe+CAPOX療法を2日間に分けたレジメンである。

※Day 1のルートキープ用の生食は、投与時の悪心嘔吐の際の時間稼ぎでも使用するため、250 mLとなっているため注意が必要である。

※オランザピンは、1日最大10 mgまで増量可能。day 1は抗がん剤投与前の投与であるが、day 2以降は日中の眠気軽減目的のため、眠前ではなく夕食後投与とされている。また、糖尿病患者には禁忌であり、糖尿病リスク因子を有する患者や75歳以上の高齢者に対する投与の安全性は確立されていないため、血糖上昇や傾眠などの有害事象に注意が必要である。また、当レジメンでは従来の使用法以外に、前日(day 0)の夕食後からの5日間(day 4まで)の投与も推奨されており、状況に応じて考慮すること。

※NK₁受容体拮抗薬は、ホスネツピタント235 mg/dayをday 1またはアプレピタント125 mg/day (day 1、抗がん 剤投与開始1時間~1時間30分前)、80 mg/day (day 2~3、午前中) のいずれかを投与する。

※Zolbeは、100 mgVでは5 mL、300 mgVでは15 mLの注射用水で溶解し、溶解後の濃度は20 mg/mLとなる。また、補液の生食は、Zolbeの濃度が $2\sim5 \text{ mg/mL}$ となるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように10倍希釈 (2 mg/mL) することとする。

備考欄

※Zolbeの投与速度は、初回は100 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、200~400 mg/m²/hrまで上げることが出来る。2回目以降は、75 mg/m²/hrから開始し30~60分後徐々に速度を上げ、150~300

mg/m²/hrまで上げることが出来る。当院では、開始60分後から投与速度を上げられることとする。但し、投与開始後60分以内にGrade 2以上の悪心嘔吐があった場合は、Grade 1以下回復後半分の速度で15分間投与し、元の速度に戻す。また、Grade 4の嘔吐では投与中止すること。詳細は速度管理表を参照すること。

※Zolbeの調製後の保存は室温で6時間まで、2~8℃で24時間までとなっているので、悪心嘔吐による投与中断時には注意すること。

※Zolbe投与後のフラッシュは、Zolbeの最終投与速度に合わせること(投与直後の点滴速度変化により悪心を 惹起する可能性があるため(メーカーより))。

※デキサメタゾン点滴静注の内3.3 mgは、L-OHPによる静脈炎予防のためL-OHPと混注する。

※L-OHP総投与量800 mg/m²を超える場合は蓄積性の神経毒性注意。

※CAP投与量は以下の通りである(いずれも1日2回朝夕食後の分2投与)(C法)。

BSA 1.36 m²未満: 2400 mg/day、BSA 1.36 m²以上1.66 m²未満: 3000 mg/day、BSA 1.66 m²以上: 4200 mg/day、BSA 1.96 m²以上: 4200 mg/day